

「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」実施報告書

【学校名】 茨城県 立 中央高等 学校

【テーマ】 I II **III** IV V

- I 「オリンピック精神」の活用
- II 「おもてなし」や「ボランティア精神」の醸成
- III 障害者スポーツへの関心の向上
- IV 異文化理解・国際教育の促進
- V スポーツを楽しむ心の醸成

【実践研究タイトル】

障害者スポーツを体験して障害者理解を深め、豊かな人間性を育もう！

【実施学年】

【目的・ねらい】

障害者スポーツの体験や障害者との交流を通して障害者理解を深める。
障害者の社会参加や障害に対する理解を深め、社会性豊かな人間性を育む。

【種類】 ※当てはまるものに○・複数可

各教科 (保健体育) ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
・教科以外での取組()

【実践内容等】

10月	・障害者スポーツ体験及び障害者トップアスリートとの交流 (フロアーボール) 障害者トップアスリートによるエキシビションマッチ * スレイヤーズ 対 クラッシュエンペラー * スポーツ交流・体験活動
11月	(1)チーム練習 (2)交流ゲーム
12月	・パラリンピアン・障害者スポーツに関する後援会 講師 臼井二美男(義肢装具士)・村上清加(陸上競技選手) 演題 「義足アスリートの競技生活」
1月	・障害者スポーツ体験 (ブラインドサッカー) スポーツ科学コース サッカー部によるブラインドサッカー体験
2月	・「おもてなし」の心に学ぶ、障害者とのコミュニケーションの講演 講師 江上いずみ(筑波大学客員教授) 演題 「グローバルマナーとおもてなしの心」 ～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～

(様式第5号)

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う問題点】

- ・ 障害者スポーツを体験し、障害者とふれあうことができたので、差別や偏見をなくすことができたが、実際にこのような体験をしないと、言葉だけでは障害者スポーツを伝えることはかなり困難である。
- ・ 健常者がオリンピックに興味関心を持つことに比べて、パラリンピックに興味関心を持たせることは、近親者に障害者がいたり、生涯スポーツを体験した経験のある者でない限り、難しい問題である。

・ 障害者スポーツ体験及び障害者トップアスリートとの交流
(フロアボールー)



目隠しをして、指示だけでゴールを守る



実際のプレー



障害者トップアスリート同士のエキシビジョンマッチ

・ パラリンピアン・障害者スポーツに関する講演会

講師 臼井二美男（義肢装具士）

- ・ 28歳の時に財団法人鉄道弘済会・東京身体障害者福祉センターで働き始め、義足製作に取り組んだ。その後、写真で見た海外の切断障害者が義足によってさまざまなスポーツを競技している姿に触発され、通常の義足に加え、スポーツ義足製作を研究。

講師 村上清加（陸上競技選手）

- ・ 2009年に事故により右足大腿部半分を切断し、大腿義足を使用。
- ・ 2009年11月より義肢装具士の臼井二美男氏代表の切断者スポーツクラブ「HEALTH ANGELS」

演題 「義足アスリートの競技生活」



本校生徒に義足をつける



義足を付け実際に歩いてみる

(様式第5号)

・障害者スポーツ体験
(ブラインドサッカー)

スポーツ科学コース サッカー部によるブラインドサッカー体験



ボールの場所を指示する様子



ボールの場所にたどり着けない様子

・「おもてなし」の心に学ぶ、障害者とのコミュニケーションの講演会

講師 江上いずみ（筑波大学客員教授）

演題 「グローバルマナーとおもてなしの心」

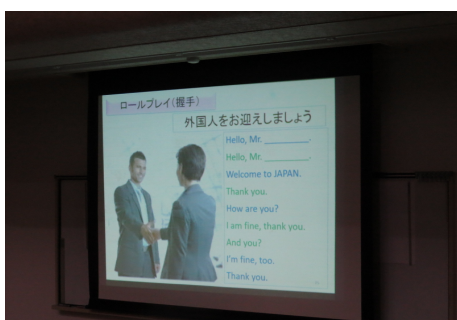
～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～



国によっておもてなしが異なる



飲み物の受け渡し



外国人のお迎え



友だち同士でお迎えの練習

2年女子 感想

今回の講演で「おもてなし」について改めて学ぶことができました。日本のおもてなしを海外では理解されないことがあったり、日本のマナーと海外のマナーと逆であったり、この講演で知ることがなかったら、将来恥ずかしい思いをしていたと思います。私は進路に向けて、これから面接を受ける機会が増えると思いますが、その時に今日学んだ①相手の目を見ること②礼をしながら話さないことを活用していきたいと思います。

自分の便利なことが、相手には不便であったり、自分に当たり前なことが当たり前ではなかったりするの、やってもらって当たり前だと思わず、いろいろな人に感謝の気持ちを伝えることを恥ずかしがらずにしていきたいです。今日、この講演で大切なことを学べて良かったです。